

## 真新しい布切れと新しいぶどう酒のたとえ

【聖書箇所】 マタイの福音書 9章 14～17 節

### ベレーシート

●マタイの福音書 9 章には、中風の人のいやしを通してイエシュアには罪を赦す権威があるという話や、イエシュアはいつでも取税人や罪人たちを受け入れて食事をするという話、さらにはヨハネの弟子たちがやって来てイエシュアの弟子たちが断食しないことに対して質問する話など、これらの話はみなつながっています。どういう点でつながっているのか言えば、律法学者たちやパリサイ人たちがイエシュアの言動を理解できずにつまずきとなっているという点と、それによってむしろ天の御国の有益な教えが引き出される形となっている点です。つまり、天の御国の真理はそれに反駁する者たちの反論を契機として、より一層深く展開されていきます。

### 1. ヨハネの弟子たちの質問

●9 章 14 節に、ヨハネの弟子たちがイエシュアのところにやって来て、「**私たちとパリサイ人はたびたび断食をしているのに、なぜあなたの弟子たちは断食をしないのですか**」と質問しました。律法(トーラー)では年に一度の「贖罪日」を、ティシュレー(第七)の月の 10 日に行うことが命じられていました。それはイスラエルの民が過去一年間を振り返り、神に赦しを請う祈りと悔い改めの日々を過ごすものでした。それ以外にも、ユダヤ人たちは宗教的善行としての「断食」の習慣を、年間を通して数多く持っていたようです。特にパリサイ人たちは週に二度も断食していたようです(ルカ 18 :9～13)が、彼らの断食は往々にして偽善的なものであり、その行為を人々に自慢して見せるためのものでした。しかしヨハネの弟子たちの断食はそれとは異なり、自分たちの師であるヨハネにならった禁欲的な断食だったと思われます。

●「**私たちとパリサイ人は**」とあるのは、ヨハネの弟子たちとパリサイ人の共通点は「断食」していたことでは一致していますが、両者は特別に仲が良かったわけではありません。むしろパリサイ人たちがヨハネの弟子たちをけしにかけて、質問者として仕立てたと言えなくもありません。いずれにしても、彼らはイエシュアの弟子たちが自分たちと同様に断食しないのが理解できなかったのです。

●ヨハネの弟子たちの質問に対して、イエシュアは弟子たちを次のように弁護されました。

【新改訳 2017】 マタイの福音書 9 章 15 節

イエスは彼らに言われた。「**花婿に付き添う友人たちは、花婿と一緒にいる間、悲しむことができますでしょうか。**

**しかし、彼らから花婿が取り去られる日が来ます。そのときには断食をします。**

## מתן

●イエシュアは、ヨハネの弟子たちやパリサイ人のしている断食について、ここで何ら非難することはしていません。断食とは悲しみを表わすためにするものであり、喜びにあふれる婚礼の宴会の席において、「花婿と一緒にいる間、悲しむことができるでしょうか」と答えています。ここで言われている「花婿」とはイエシュアのことです。「花婿に付き添う友人たち」とは、ここではイエシュアの弟子たちのことです。イエシュアの弟子たちは「花婿に付き添う友人たち」として、婚礼に招かれた客として歓迎を受けています。ですから、そのような席で彼らは「悲しむことはできない」のです。

●イエシュアは「天の御国」をしばしば結婚式の披露宴(宴会・祝宴)にたとえています(マタイ 22:1~14、25:1~13)。しかし、「彼らから花婿が取り去られる日が来ます。そのときに断食をします。」と答えています。「彼らから花婿が取り去られる日が来ます」とはどういうことでしょうか。これは、当時のイエシュアの弟子たちにもヨハネの弟子たちにも分からなかったと思います。「彼らから花婿が取り去られる日が来る」とは、イエシュアがこの地から取り去られる「十字架(復活と昇天も含む)から再臨までの期間」を表わしています。「花婿が取り去られる日」はイエシュアの弟子たちにとっては悲しみの時です。このときこそ断食すべき時なのだと言われたのです。事実、イエシュアの弟子たちが見える形で断食したという箇所はありません。イエシュアは山上の説教で断食をするときの注意を語っています。断食をするときには人に見られないように、むしろ断食していることが、人ではなく、隠れたところにおられる父に見えるようにすべきであると教えていました(マタイ 6:16~18)。イエシュアの昇天後、初代教会では何度かイエシュアの弟子たちが断食したことが記されています(使徒 13:2,3,14:23)。

●これで一件落着きたいところですが、イエシュアは質問されたことを答えることだけにとどまらず、むしろヨハネの弟子たちの質問を契機として、天の御国について新たな面を語っています。イエシュアの関心は常に天の御国のことでした。ですから続く 16~17 節の「二つのたとえ話」によって語っておられるのです。むしろこのことを理解することの方が重要なのです。

## 2. 天の御国についての「二つのたとえ」

●まずはイエシュアの語られた「二つのたとえ話」を見てみましょう。

【新改訳 2017】マタイの福音書 9 章 16~17 節

16 だれも、真新しい布切れで古い衣に継ぎを当てたりはしません。そんな継ぎ切れは衣を引き裂き、破れがもっとひどくなるからです。

17 また、人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば皮袋は裂け、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れます。そうすれば両方とも保てます。

●「たとえ話」とは天の御国のことを表す地上の話です。ですから、そこには当然「奇妙な部分」(異質性)を伴います。それが異質であればあるほど、イエシュアが言おうとされている本質が含まれているのです。

## מתן

「たとえ話」にある異質性とは、人間にとっては非合理性、あるいは反自然的なものが含まれます。天の御国はまさにそのような非合理性や反自然的である点に重要性があるのです。ですから、イエシュアが語る「たとえ話」が人間的な生き方の延長線上に結びつけて解釈されるとすれば、異質性は失われて、天の御国を理解することができなくなるのです。イエシュアが「たとえ話」で語られるのは、むしろ天の御国に関心を持つことのない者に対しては「秘密」にされて、その真意を悟らせないためなのです。

●ところで、「二つのたとえ話」はとても短く、あたかも常識的なことを語っているかのように見えるため、イエシュアがなぜこの「たとえ話」をされたのか理解できないほどです。まず「二つのたとえ話」ですが、なにゆえ「二つ」がワンセットとして取り上げられているのでしょうか。それは、「二つ」で一つのことを教えようとしているからにほかなりません。「だれも、真新しい布切れで古い衣に継ぎを当てたりはしません。」とか、「人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。」とか、もしそのようなことをすればどうなってしまうかは誰でも分かり切っている話です。いずれもこの世の常識的なことを語っているように見えますが、その真意は、イエシュアがご自分を「真新しい布切れ」と「新しいぶどう酒」にたとえて、「天の御国」の到来の非常識さを教えようとしているのです。

●つまりヨハネの弟子たちの「断食」に対する質問を通して、**天の御国の到来のあり方**が語られているのです。それは天の御国はすでにここにあるということが、「花婿と一緒にいる間、悲しむことができるでしょうか」という言い方で表されています。さらに、「彼らから花婿が取り去られる日が来る」という言い方で、天の御国の到来が先延ばしにされていることが示唆されています。つまり、「彼らから花婿が取り去られる日が来る」ということばの中になが、「再び花婿に会う日が来る」ことが示唆されているのです。そのように**天の御国の到来の仕方が二様になっている**ということです。「二つのたとえ話」の中で言おうとしていることはそのことなのです。このことをもっとわかりやすく話していきたいと思います。

●イエシュアは**天の御国は近づいた**と宣教を開始されました。しかし同時に、**天の御国はすでにここにある**とも言われました。

【新改訳 2017】マタイの福音書 12 章 28 節

しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。

(※並行記事のルカ 11 章 20 節では「神の指」となっています)

【新改訳 2017】ルカの福音書 17 章 20～21 節

20 パリサイ人たちが、神の国はいつ来るのかと尋ねたとき、イエスは彼らに答えられた。「神の国は、目に見える形で来るものではありません。

21 『見よ、ここだ』とか、『あそこだ』とか言えるようなものではありません。見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。」

## מתּוּ

●天の御国(神の国)は「近づいた」、そして「すでに来ている、あなたがたのただ中にある」という二つの現実を、ギリシア語では当然ながら二つの言葉、二つの時制をもって表します。一体どちらが正しいのかをめぐって神学的論争も起きているほどです。しかしヘブル語の「カーラヴ」(קָרַב)は、何とこの両方の意味を持っている不思議な語彙なのです。バプテスマのヨハネもイエシュアも、「悔い改めなさい。天の御国は近づいたから」ということばで宣教を開始されています。この「近づいた」が「カーラヴ」(קָרַב)です。また預言者イザヤが女預言者に「近づいた」とき、彼女はみごもったとあります(イザヤ 8:3)。そこから、「カーラヴ」は単に距離的に「近づいた」という意味だけでなく、「~の中にある」というすでに一体の状態をも意味しています。その意味において、イエシュアは「もう神の国はあなたがたのただ中にある、あなたがたのところに来ている」(マタイ 12:28/ルカ 17:21)とも語っているのです。

●ヘブル語の動詞「カーラヴ」(קָרַב)は、限りなく「近づいている」という意味と「すでにあなたがたのただ中にある」という意味を含んだ語彙であることが分かります。つまり、それは神のご計画における「**いまだ**」と「**すでに**」という時系列の緊張関係を表わすことのできる、まことに不思議な語彙なのです。このような意味を持っている語は他にありません。ヘブル語はまさに、イエシュアを通してなされる神のご計画を正しく表現できる、神が選んだ聖なる言語と言えます。天の御国の到来をそのように理解すればよいのですが、私たちの常識ではなかなか理解できません。そのことを念頭に置きながら、「二つのたとえ話」が意味することを見ていきたいと思えます。

●このたとえにある「真新しい布切れ」と「新しいぶどう酒」がイエシュアをたとえているとしたらどうでしょうか。

### (1) 真新しい布切れで古い衣に継ぎ当てをしない

●なにゆえに「真新しい布切れで古い衣に継ぎ当てをしない」のでしょうか。それは、洗濯した場合に、真新しい布切れは古い衣の部分よりも大きく縮むため、真新しい部分が古い部分を引っ張り、最初にあった裂け目よりも大きくしてしまい、「破れがもっとひどくなるから」です。しかし、「真新しい布切れで古い衣に継ぎ当てをしない」というのは、この世の常識であって、天の御国がこの世のただ中に入ってくるということは、「真新しい布切れで古い衣に継ぎ当てをする」ような、きわめて非常識的なことなのです。実はイエシュアの到来がそのことをもたらしているということです。

●古い服に継ぎ合わせられた真新しい布切れは、洗ったり、干したりするうちに縮みます。そして古い服を引きちぎってしまうのです。「真新しい布」である新しい権威をもったイエシュアの存在は、当時の最高法院で、自らの服を引き裂いた大祭司カヤパ(マタイ 26:65)に代表される古い律法主義や権威主義を引きちぎったことに象徴されます。そしてそれは同時にイエシュアの死をも意味します。イエシュアの十字架の死によって神殿の幕が上から下まで真二つに裂かれたことにも、そのことが表わされると言っても良いでしょう(マタイ 27:51)。こういふわけで、「真新しい布切れ」であるイエシュアがメシアとして支配する天の御国は古い衣に継ぎ当てするような世界ではなく、全く新しい世界(王国)なのです。つまり、イエ

シュアの言う「天の御国」は、この世にあるものの延長線上にはない現実なのです。それゆえ「天の御国のたとえ話」は人間の常識ではなかなか理解できないのです。当時の律法学者たちやパリサイ人たち、またヨハネの弟子たちにも理解できない事柄だったのです。

## (2) 新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりしない

●マタイ 9 章 16 節の「真新しい布切れ」の「真新しい」と訳された形容詞は、ギリシア語の「アグナフオス」(ἀγνάφος)でとても珍しい語彙です。この箇所と、並行記事であるマルコの福音書の 2 章 21 節の二箇所しか使われていません。「(布を)日や水でさらしていない」、まさに「真新しい」という意味です。9 章 17 節の「新しいぶどう酒」の「新しい」と訳された形容詞はギリシア語の「ネオス」(νέος)です。また「新しい皮袋に」の「新しい」はいまだ使われたことのない「新しさ」を意味する「カイノス」(καινός)です。「ネオス」(νέος)にしても、「カイノス」(καινός)にしても、ヘブル語ではいずれも「ハーダーシュ」(חֲדָשׁ)なのです。

●このヘブル語の「ハーダーシュ」(חֲדָשׁ)という言葉ですが、実は、「王の出現」と「王の統治」と深い関係を持っています。この「ハーダーシュ」(חֲדָשׁ)の初出箇所は出エジプト記 1 章 8 節で、「やがて、ヨセフの知らない**新しい王**がエジプトに起こった」で使われています。この「新しい王」はこの世の王であり、イスラエルの民を窮地に陥れるエジプトの新しい王ですが、それは同時に、イスラエルの民に対して主なる神、イスラエルの神こそ、エジプトの王に勝る「**とこしえに続べ治められる王**」であることが啓示されます(出エジプト記 15:18)。このように「ハーダーシュ」(חֲדָשׁ)は、**王なる権威と密接な関係**があるのです。新約の「新しい契約」「権威ある新しい教え」「悪霊を追い出す新しいことば」「新しい戒め」といった語彙の「**新しさ**」は、すべて王的権威をもった方(メシア)によってもたらされるのです。したがって今回の「真新しい布切れ」や「新しいぶどう酒」のたとえば、すべて御国の王であるメシア・イエシュアのことを言おうとしているのです。ちなみに、「ハーダーシュ」の動詞「ハーダシュ」(חֲדָשׁ)は、本来、王政(王国)を「樹立する」「一新する」ことを意味しています(初出箇所、Iサムエル 11:14)。

【新改訳 2017】Iサムエル記 11 章 14 節

サムエルは民に言った。「さあ、われわれはギルガルに行って、そこで王政を樹立しよう(חֲדָשׁ)。」

●ところで新しいぶどう酒を古い皮袋に注ぎ込むとすれば、古い皮袋は「**引き裂かれ**」ます。それがこの世の常識です。しかし新しいぶどう酒であるイエシュアの到来は、古い皮袋という律法主義と権威主義を「引き裂いた」のです。この「引き裂く」というギリシア語は「レーグニューミ」(ρήγνυμι)ですが、ヘブル語にすると「バーカ」(בָּרַק)となります。

●「バーカ」(בָּרַק)の初出箇所は創世記 7 章 11 節です。洪水によって地にさばきをもたらすために、「大いなる淵の源がことごとく**裂け**、天の水門が開かれた」ところに使われています。「バーカ」(בָּרַק)は、地上に住む人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になり、すべての生けるも

## מתן

のを大地の面から消し去って、地を新しくするために「大いなる淵の源がことごとく裂けた」だけでなく、出エジプトに見られるように、神はイスラエルの民に紅海を分けて (切り開いて) 渡らせました。また荒野で神は岩を割り、大いなる深淵の水を豊かに飲ませてくださったとあります。神のご計画を実現するために、新たに道を切り開くための神の方法が「バーカ」(בָּרַק) という言葉に込められています。まさに古い皮袋を「引き裂いて」神のご計画を切り開く方こそ、「新しいぶどう酒」にたとえられたメシア・イエシュアなのです。それゆえ古い皮袋は「引き裂かれ」るのです。「引き裂く」ことを、イエシュアは「剣をもたらす」とか、「分裂」という言葉で語っています。

【新改訳 2017】マタイの福音書 10 章 34 節

わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っ**て**はいけません。わたしは、平和ではなく**剣をもたらす**ために来ました。

【新改訳 2017】ルカの福音書 12 章 51 節

あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思っ**て**いますか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ**分裂**です。

### 3. 神はメシア・イエシュアを通して新しいことをする

●「新しいぶどう酒」のたとえ話には、「真新しい布切れ」のたとえ話にはないことが記されています。それは「**新しいぶどう酒(単数)は新しい皮袋(複数)に入れます。そうすれば両方とも保てます。**」という言葉です。ここで言うところの「両方とも」とは、「新しいぶどう酒と古いぶどう酒」のことでもなく、「新しい皮袋と古い皮袋」でもありません。それは「新しいぶどう酒と新しい皮袋」のことです。これは、王であるメシア・イエシュアによって天の御国がやがて完成することを意味しています。

●神は旧約の預言者を通して「新しいこと」をすると繰り返し語っています。しかしその「新しいこと」は、私たちの願いや努力によってではなく、神のご計画によって、**王なるメシア・イエシュア**によってなされる**ことが示唆されている**のです。

【新改訳 2017】イザヤ書 42 章 9 節

初めのことは、見よ、すでに起こった。

**新しいことを、わたしは告げる。**

**それが起こる前にあなたがたに聞かせる。**

【新改訳 2017】イザヤ書 43 章 19 節

見よ、わたしは**新しいこと**を行う。

あなたがたは、それを知らないのか。

**必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。**

今、それが芽生えている。

【新改訳 2017】イザヤ書 48 章 6 節

あなたは聞いた。さあ、これらすべてを見よ。

あなたがたは告げ知らせないのか。

わたしは今から、**新しいことを、**

**あなたの知らない秘め事をあなたに聞かせる。**

## מתן

【新改訳 2017】エレミヤ書 31 章 31 節

見よ、その時代が来る——【主】のことば——。

そのとき、わたしは**イスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。**

【新改訳 2017】エゼキエル書 36 章 26 節

あなたがたに**新しい心を与え**、あなたがたのうちに**新しい霊を与える。**

わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

(※ここでの「あなたがた」とは、「イスラエル全家」のことです。)

●これらのみことばに約束された「新しいこと」である「**新しい契約**」「**新しい心**」「**新しい霊**」は、すべて「真新しい布切れ」と「新しいぶどう酒」にたとえられた神の御子イエシュアによってのみ実現されるのです。すでに述べたように、「新しい」というヘブル語の「ハーダーシュ」(חדש)は、王が新しく台頭して統治する概念です。それゆえ、王なるメシアであるイエシュアがこの地上において完全に統治する再臨の時をいよいよ待ち望みながら、今与えられている天の御国の恵みにあずかりたいと思います。

2018.7.15